
ギャルゲヲタがアイドルを作る事になりまして

三毛猫らんでぶー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギャルゲヲタがアイドルを作る事になりました

【Nコード】

N6168Z

【作者名】

三毛猫らんでぶー

【あらすじ】

アイドル事務所を設立した伊吹豊春（25）の従弟の伊吹一真（16）によるアイドル育成ラブコメ。色々な女の子をアイドルにしてくなか、色々な問題にも立ち向かっていく。

プロローグ（前書き）

どうも、三毛猫ランデブー（以後三毛猫）です。暇潰し思いつき作品でもう酷いくらい初心者ですので、不快に感じた方は即退場して頂いて構いません（<^{カスマ}_{トヨハル}>）WW

主人公は一真君^{カスマ}です。豊春^{トヨハル}ではありませんWWWW主人公をかつこよく書きたいと思ってますが、未熟者なのでどうなるかわかりますん汗WWWWこんな作者と作品を暖かい目で見守って頂ければ幸いです。

プロローグ

プロローグ

困った事が起きた・・・

僕、伊吹豊春は子供の頃から何故かアイドル事務所を立ち上げるのが夢だった。そしてやっと、念願の事務所を設立したのだ。クライアントや学生の頃から手伝ってくれた友達のお陰だった。だが、問題が発生した。肝心のタレントが・・・居ないのだ。「はあゝ」豊春は人をのせるのがとても上手かった。自分の理想を相手に掲げ、相手にその姿を想像させる、そして、それが如何に魅力的かを伝え、共に“同じ立場”で夢を共有化させるのが彼の唯一の特技だった。しかし、それは男性に限っての話なのだ。

彼は25年間の人生を歩いてきて一度も親族以外の女性と会話をしたことがない。

何故なら彼は女性が大の苦手なのだ。

小さい頃から自由な姉達に振り回され、女の方は恐ろしいという意識を持っている。そんな奴がアイドル事務所を設立なんてふざけた話、しかし、彼は二次元の女性なら問題なかった。そう、二次元女は平気だった。むしろ画面向こう側の彼女達は、落ち込んだ自分を励ましてくれたり、叱咤してくれたりした。そんな彼女達に憧れ、アイドル事務所を設立したのだ。

だが実際リアルな女性は苦手な彼が新しいタレントを自分で見付けられる事もなく、彼は今日も寒空の下タレント1号を探すべく、街を歩くのだった。

一筋の光（１）

― 12月10日 ―

豊春がタレントを探し初め1ヶ月が経とうとしていた。仲間達は自分と同じ人種、設立に尽力を尽くしてくれた彼らもタレントを見付けられずにいた。それは勿論、ネットなどで募集し、可愛い娘達が来てくれた。が、しかし、面接官が、居なかった。予定していた面接官は当日に腹痛を起こしたり、熱が出たり、それは酷い有り様だった。

（設立まで・・・いや、正確には“設立一歩手前”まで来たのにな・・・）

タレントが居ないのに設立出来る筈がない。そう、一歩手前で止まってるのだ。

「なんで、ここまで来たのに。」そんな言葉が口から出てきてしまう。

そんな時、彼の携帯が鳴った。（誰だよ・・・）上手くない事にうんざりしながら携帯のディスプレイを覗き込む。そこには、“伊吹一真”そう、甥っ子の名があった。

一筋の光(2)

12月11日 AN 11:45

「叔父さん久しぶり。叔父さんに聞きたい事があるんだけどさ、家族にゲームを隠すには何処がいいと思う？（返信早めに）」

俺は、昨日同じ趣味を持つてる豊春叔父さんにこのメールを送った。そう、家族に知られたくないゲームの隠し場所の相談のメールをしたのだ。なのに・・・何故今、叔父さんは俺に、この俺に、アイドルの面接官をしてくれ、なんて頼んでるんだ？

時間は戻って10日、叔父さんはすぐに返信してきた。内容はこう「教えるから、明日会ってくれ。場所は駅のサイセリア、時間は9時だな。」とい内心え〜、と思っってしまう内容だった。

まあ朝飯を奢ってもらえるならと返信し、（一応頼んでる立場）今日会う事になった。

そんでもって俺は親に朝飯は要らないと伝え、早々に待ち合わせ場所に行った。

「・・・叔父さん早くね？」俺は半ば呆れ気味で聞く。「なんだい一真、久しぶりに会ったのに酷いじゃないか、僕は残念でならないよ。」（・・・）こんな顔して

・・・全くなんて顔してんだあんたは・・・

俺たちはとりあえず店員が誘導してくれた席に着き、食べ物を注文した。

「いやあ、昨日は驚いたよ。可愛い甥の一真からメールなんてさ。」ハッハッハと笑いながらそんな事を言う。・・・絶対思ってないな。

「所で隠し場所なんだけど、庭の土の中、あそこは絶対にバレない

よ。」「親指立てて言ってるよこの人。てか土の中って・・・」「久しぶりに会ったけど、叔父さんの頭のおかしさぶりには驚かされるよ。」「酷いな一真は。」「酷くない、普通だ、普通。

そんなこんなしてる間に頼んでた料理が来た。俺はプチプチ感とタラコの旨さが詰まったタラコスパ、叔父さんは安さと旨さのドリアを選んだ。

他愛ない会話をしながら料理を食べていると、叔父さんがふと聞いてきた。「そういえば、一真は藤八谷高校だったよね?」「藤八谷高校、地元でも有名な学校で俺が通っている。」「そうだけど、どうしたの?」「高校では友達はいるの?」

「いや、そりゃいるでしょ。」「むしろ居なきゃ嫌だ。人として。

すると、叔父さんは顔を輝かせこんな事を言いやがった。「一真! !叔父さんを助けると思って、面接官になってくれ!」・・・は?「えと、なんの?」「アイドルの! !」・・・勘弁してくれ

一筋の光（2）（後書き）

すみません。なんかとても長くなってしまいました。一真が頑張る
まであとちよつとの予定です。汗

今自分は補習をやってるので更新は遅くなると思います汗
すみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6168z/>

ギャルゲヲタがアイドルを作る事になりまして

2011年12月20日20時46分発行